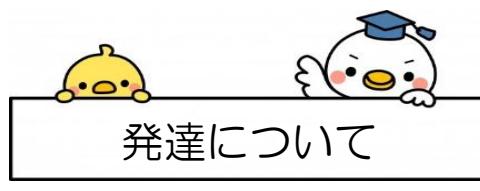




言葉で考える力や他人の気持ちを想像する力が育ち始める3歳児



からだ

自由に体を動かして2つの動作が一度にできる。

全身のバランスが整い始め、跳んだり跳ねたりが自由にできるようになります。また、2つの動作を1つにまとめ上げる力が育ち始めます。

ことば

言葉が著しく発達し、気持ちを言葉で表現し始める。

長い文章や複雑な言葉を話すようになり、ものを考える道具として言葉を使いはじめます。

さらに大人の会話や絵本に触れ合う経験のなかで、言葉の数や興味がどんどん増えていきます。

社会性

他人の存在や気持ちに気づき理解しようとし始める。

自分以外の人にも自我があることに気づきます。ケンカは増えますが、誰かが間に入り仲直りすることでお互いの自我を認めあうようになります。次第に想像力が働き、相手の気持ちを理解しようとし始めます。



◆言葉で考える力を育むハラハラドキドキの物語絵本

文にじっくりと耳を傾け、絵をよく見て、自分のイメージと重ねて、ハラハラ
ドキドキする気持ちを味わえるような物語絵本がおすすめです。

◆ファンタジーや冒険もの、昔話など、さまざまな種類の絵本

江南市立図書館スタッフが選んだ 3歳児のおすすめ絵本

『いろいろぱいぱい』

つむばば／さく・え
日本アンガーマネジメント協会／監修
鈴木出版（Eイ）

やだやだ、いろいろ、むかっ…。この気持ち、どうしたらいい？ インスタグラマー・つむばばが、5つの魔法メリッドと怒るときのルールを伝える、3歳からの感情マネジメント絵本。幼少期から始める心のトレーニングに役立つ。

『おすしがふくをかいにきた』

田中達也／作
白泉社（Eオ）

おすしが服を買いにお店にやってきた。数あるすしネタから、何に変身するのかな？ アイスクリームやいちごたちも、愉快なお買い物を楽しみ…。身近なものを本物そっくりの何かに見立てて、楽しい写真絵本。

『おむすびころりん』

松谷みよこ／著 長野ヒデ子／画
童心社（Eオ）

むかし、ばあさまが山で仕事をしているじいさまへおむすびを届けに行ったと。ところが、足をすべらして転んだとたん、おむすびが転げて穴の中へ。すると穴の中から、歌声が聞こえてきた…。

『カメレオンのかきごおりや』

谷口智剛／作
アリス館（Eカ）

旅するかき氷やのカメレオン。世界中で集めた、色とりどりのシロップが店のじまん。元気のないサルくんには、レモンやバナナ、はちみつの黄色いシロップの太陽かき氷を差し出す。かき氷を食べると、すてきなことが起こり…。

『ごはん』

平野恵理子／作
福音館書店（Eコ）

具をごはんと一緒に炊き込んだ「たきこみごはん」、豪快に食べられる「どんぶりもの」、体が弱ったときにぴったりな「おかゆ」…。おいしそうなごはんがいっぱいの絵本。

『×くん』

坂野春香／ぶん・え
三恵社（Eハ）

×くんの仕事は、間違いに×をつけること。一生懸命働いたのに、人間は「×なんて、なくなってくれればいいのに」と言う。×くんはへこんだり、腹が立ったりしたが、女の子に「×は成功のもと。×くんありがとう」と言われ…。



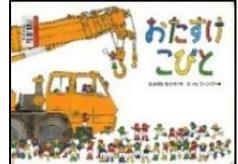
『おうさまのたからもの』

糟谷奈美／絵と文
至光社
(Eオ)



『おたすけごひと』

なかがわちひろ／文
コヨセジュンジ／絵
徳間書店（Eホ）



『かくれているよ海のなか』

高久至／しゃしん
かんちくたかこ／ぶん
アリス館（Eカ）



『力どこいった?』

鈴木のりたけ／作・絵
小学館
(Eカ)



『かみさまからの おくりもの』

ひぐちみちこ／著
こぐま社
(Eカ)



『くまたのびっくりだいさくせん』

柴田ケイコ／著
白泉社
(Eク)



『ごめんね!』

ノルベルト・ランダ／作
ティム・ワーンズ／絵 三辺律子／訳
プロンズ新社（Eコ）



『じぶんだけのいろ』

レオニ=レオニ／作
谷川俊太郎／訳
好学社（Eシ）



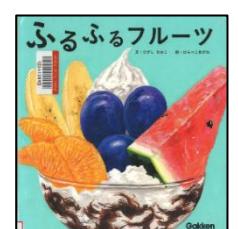
『どうぶつあいうえおえほん』

ひがしかずこ／ぶん
ティヴィッド・ウォーカー／え
岩崎書店（Eト）



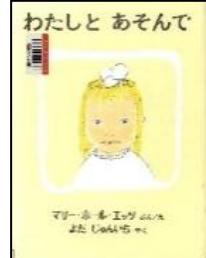
『ふるふるフルーツ』

ひがしなおこ／文
はらべこめがね／絵
Gakken（Eフ）



『わたしとあそんで』

マリー・ホール・エツツ／ぶんえ
よだじゅんいち／やく
福音館書店（Eワ）



『わたしのワンピース』

にしまきかやこ／えとぶん
こぐま社
(Eワ)

